1. 授業科目名	PISA型学力と未来の教師像		
2. 担当教員名	藤澤 健一		
3. 授業の概要	OECDによって継続的に実施されてきたPISA調査の概要、結果を解説する。同調査において求められる学力には、どのような特徴があるのか、実際に出題された問題を解くことで理解する。そのうえで、これまでの職歴・キャリアを振り返りつつ、今後の教師に要求される資質と技能を展望する。おなじくOECDによるTALISについても参照する。		
4. 到達目標	PISAとはなにかを正確に理解する。キー・コンピテンシーの概念を正確に理解する。これからの教師に求められる資質と技能を自己に即して展望する。		
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容	授業方法
	1	PISAとはなにか PISAの問題を実際に問いてみましょう PISAの国別比較 PISA型学力とは「キー・コンピテンシー」 未来の教師像	担当者からの説明と受講者によるグループ・ワークを織り交ぜながら、実践的に学習する。
6. テキスト・参考文献等	ドミニク・S. ライチェンほか『キー・コンピテンシー』明石書店、2006年 立田慶裕『キー・コンピテンシーの実践』明石書店、2014年 国立教育政策研究所編『教員環境の国際比較』明石書店、2014年		
7. 成績、評価方法・基準	筆記試験を講義最後半の30分程度で実施。		
8・特記事項	比較的、少人数のグループ・ワークを折り込むことで、実践で相互作用的な講義を展開します。		

講義日程・時間	
8月 21 日 火 曜日	2 限目

1. 授業科目名	地域社会における教育的理念		
2. 担当教員名	農中 至		
3. 授業の概要	産業・社会構造の変容(筑豊地域など炭鉱地帯の産炭地から旧産炭地化への過程など)にともなって子ども・おとなの教育/学習/発達環境にどのような変化が生じるのか。この変動過程を歴史的に読み解きながら、産業構造の変容過程において地域社会で求められる教育的な取り組みとはなにか、それら諸活動においてはいかなる教育的理念が基底に据えられる必要があるのかを検討します。本講義では、ゼロ年代から10年代にかけての現代日本社会の変化との関連も視野に入れ、これからの学校・幼稚園・保育園と地域の教育のあり方との望ましい関係づくりを展望していきます。		
4. 到達目標	地域の産業・社会構造の変動過程を適切に捉えられるようになり、限られた条件下で実行性のある地域教育実践にはどのような形態がありうるのか理解する。また、その際にどのような教育的理念が不可欠かを理解し、自らの教育実践を対象化でき、現在の自己の置かれた状況と実践を批判的に吟味できるようになる。		
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容	授業方法
	1	①今日の地域住民を取り巻く状況 ②地域社会と暮らしの変化 ③貧困問題の可視化と新しい教育・学習のニーズ ④旧産炭地の社会変動と教育 ⑤地域における教育的理念と20年代の地域の教育	グループワーク・講義
6. テキスト・参考文献等	①牧野篤『社会づくりとしての学び』東京大学出版会、2018 ②上間陽子『裸足で逃げる』太田出版、2017 ③辻浩『現代教育福祉論』ミネルヴァ書房、2017 ④日本社会教育学会編『子ども・若者支援と社会教育』東洋館出版社、2017 ⑤佐藤一子編『地域学習の創造 地域再生への学びを拓く』東京大学出版会、2015 ⑥牧野篤『生きることとしての学び』東京大学出版会、2014 ⑦牧野篤『農的な生活がおもしろい』さくら舎、2014 ⑧教育科学研究会編『講座 教育実践と教育学の再生 地域・労働・貧困と教育』第4巻、かもがわ出版、2013 ⑨上野英信『火を掘る日日』大和書房、1979		
7. 成績、評価方法・基準	記述試験を実施。		
8・特記事項			

講義日程・時間

8月 21 日 火 曜日

3 限目

1. 授業科目名	発達障害児の行動と脳科学	
2. 担当教員名	麦島 剛	
3. 授業の概要	ADHD(注意欠陥・多動性障害)や自閉症などの発達障害児に対する療育は今日的な課題である。この授業では、まず発達障害を概観し、ADHDを中心にその行動特性や知覚認知特性を論じ、これに脳がどう関係しているのかについて、神経科学の最新の知見を紹介する。さらに、ADHD治療薬の神経薬理と、行動療法の原理と実際を紹介し、最後に、今後の療育で取り組むべき課題について、基礎研究者の立場から提案する。	
4. 到達目標	ADHDなどの発達障害の神経基盤、行動の特性、知覚・認知の特性、薬物療法、行動療法を理解する。また、発達障害への科学的考察を通して見えてくる諸問題を批判的に考える。	
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容
	1	発達障害とは？ ADHDの行動特性。ADHDの神経基盤。ADHD治療薬とその神経薬理。オペラント療法を中心とした発達障害への行動療法。療育と研究における今後の課題。
		授業方法
		講義
6. テキスト・参考文献等	必要分については、当日、図表を配布します。	
7. 成績、評価方法・基準	試験を行いません。試験問題は以下の通りです。 「発達障害について、自由に論じてください。講習での情報をまとめても構いませんし、ご自身の経験や意見を述べても構いません。」 ノート、書籍、論文等、全て持ち込み参照可。下書きを用意なさっても構いません。	
8・特記事項	ご多忙の折、時間と労力と受講料を割いて義務を果たされる先生方に敬意と共感を表します。この機会を逆に利用して、ぜひ大学と小中高を研究と教育で結びかけ(ノルマやお仕着せではない)になれば幸いです。	